

Q. 「授乳婦に対して使用すると、乳児に影響を及ぼす薬剤で、最も印象に強い薬剤をお答え下さい」

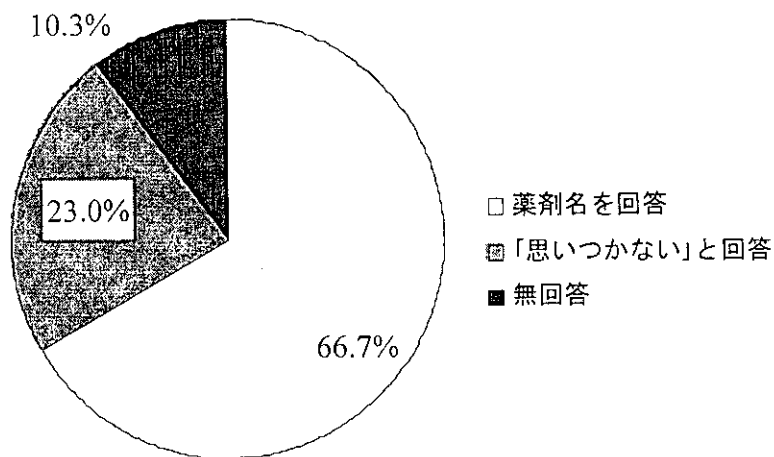


Figure 6. 「授乳婦に使用すると乳児に影響を及ぼす薬剤」に関する認識度

Table 4. 授乳婦への投与により乳児に影響を及ぼすとして挙げられた薬剤 (複数回答)

薬効群	回答数	具体的に挙げられた薬剤名(製品名)の例
NSAIDs	11	アスピリン
抗てんかん薬	9	イトラコナゾール
抗うつ薬	7	エトレチナート (チガソン)
抗生物質	5	エリスロマイシン
抗精神病薬	2	塩酸セチリジン (ジルテック)
抗がん剤・化学療法剤	4	ジアゼパム
抗菌薬	4	シクロスポリン
糖尿病治療薬	2	ジクロフェナクナトリウム (ボルタレン)
抗甲状腺薬	2	炭酸リチウム
ACE阻害薬	1	チアマゾール (メルカゾール)
抗凝血薬	1	ニルバジピン (ニバジール)
免疫抑制剤	1	メキタジン (ニポラジン)
利尿薬	1	メトトレキサート
解熱鎮痛薬	1	

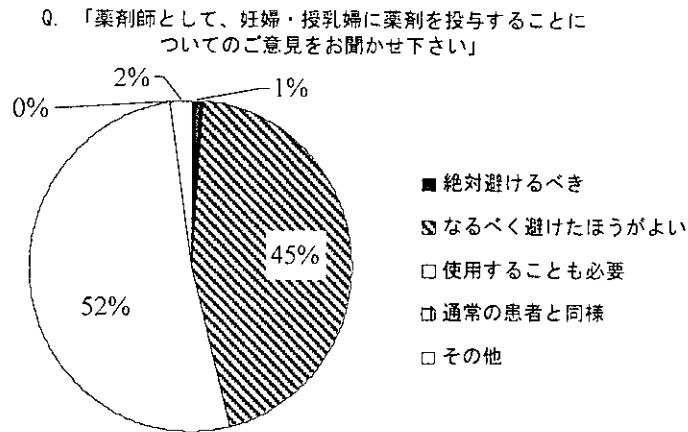


Figure 7. 「妊婦・授乳婦に対し薬剤を使用すること」に関する意見

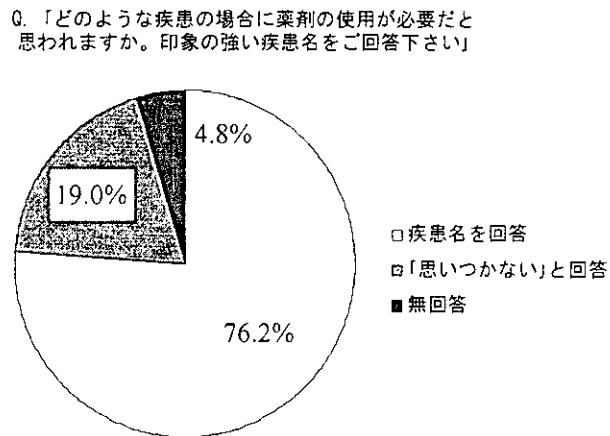


Figure 8. 「妊婦・授乳婦に対して薬剤を使用する必要がある疾患」に関する認識

Table 5. 妊婦・授乳婦に対して薬剤の使用が必要だと挙げられた疾患・症状 (複数回答)

疾患名	回答数	疾患名	回答数
てんかん	20	結核	2
喘息	13	甲状腺機能亢進症	2
がん	5	特発性血小板減少性紫斑症	1
糖尿病	5	不整脈	1
心疾患	4	ネフローゼ腎症	1
妊娠中毒症	4	リウマチ	1
高血圧	3	脳神経疾患	1
感染	3	膠原病	1
重篤な症状の患者	3	HIV感染症	1
切迫早流産	3	精神病	1
自己免疫疾患	3	インフルエンザ	1
一般感冒	2	性病	1
肺炎	2	疼痛	1
クローン病	2		

Q. 「妊婦・授乳婦に薬剤を使用するとき、胎児や乳児に及ぼす薬剤の影響についての情報を伝えていますか」

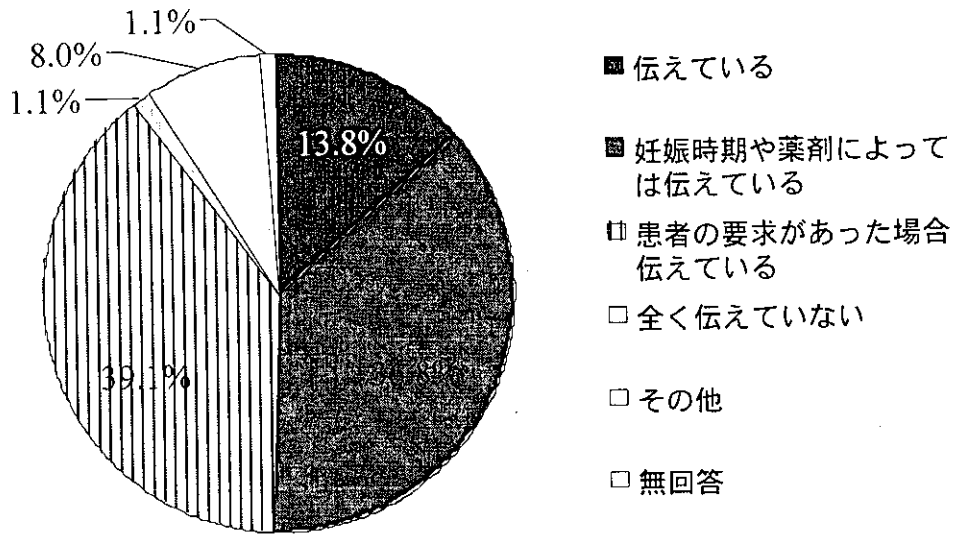


Figure 9. 妊婦・授乳婦に対する薬剤情報提供の実施状況

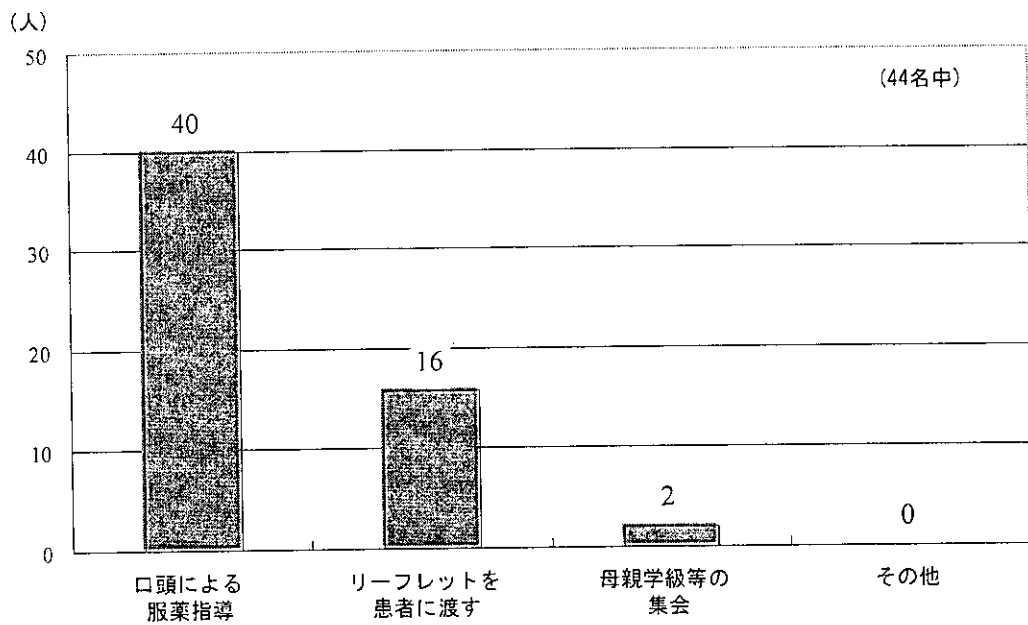


Figure 10. 薬剤情報提供の方法 (複数回答)

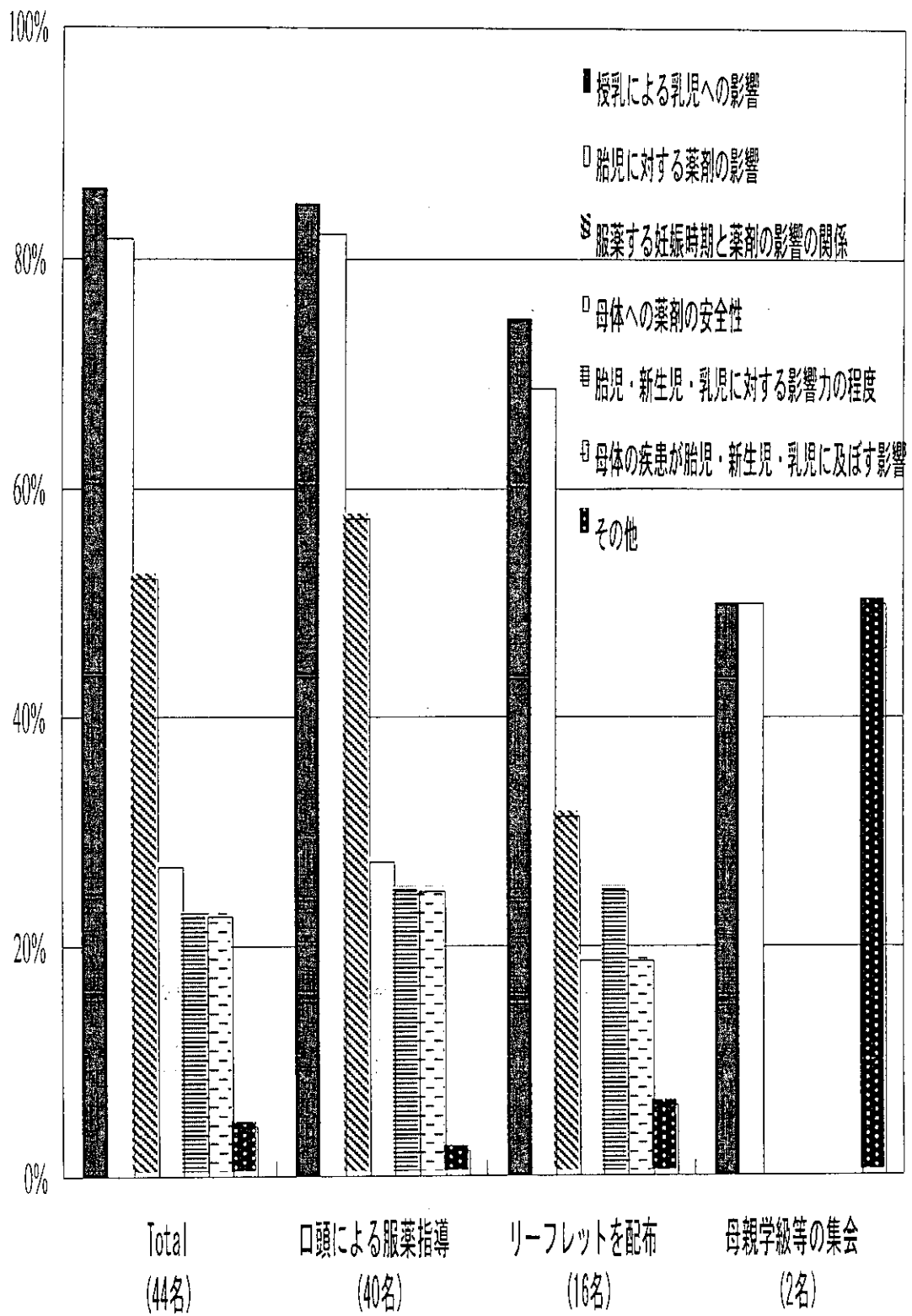


Figure 11. 妊婦・授乳婦の患者に対して行っている情報提供の内容 (複数回答)

Q. 「処方薬の胎児または乳児への影響について、患者から質問を受けることがありますか」

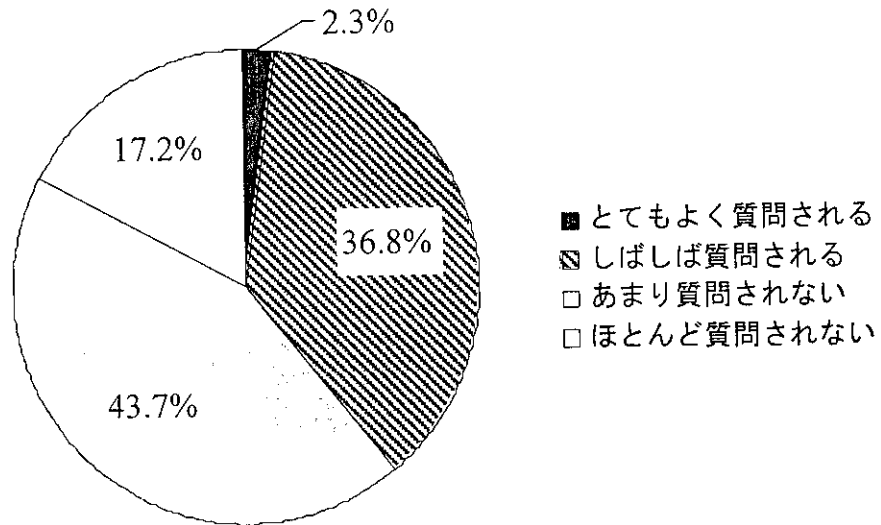


Figure 12. 妊婦・授乳婦の患者から薬剤に関する情報を求められる頻度

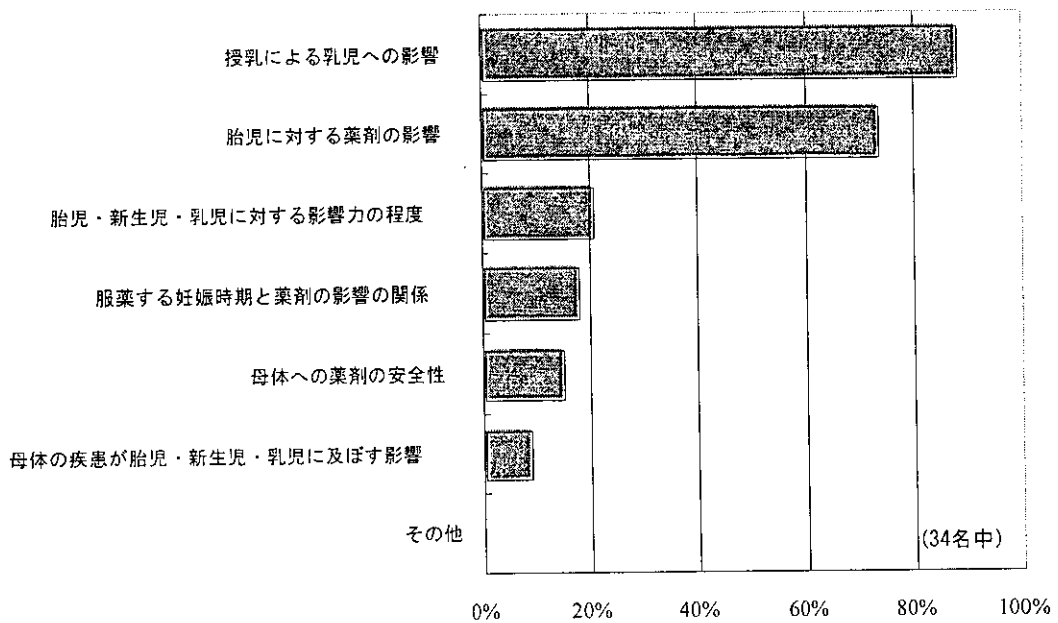


Figure 13. 妊婦・授乳婦の患者から求められる薬剤に関する情報の内容 (複数回答)

Q. 「処方医に対して、妊婦・授乳婦への投与に関する薬剤の情報を提供していますか」

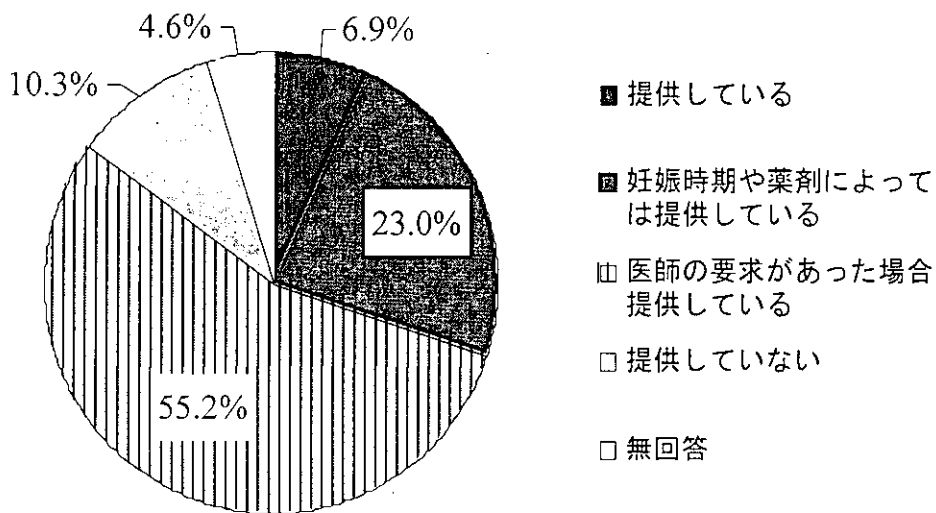


Figure 14. 医師に対する薬剤情報提供の実施状況

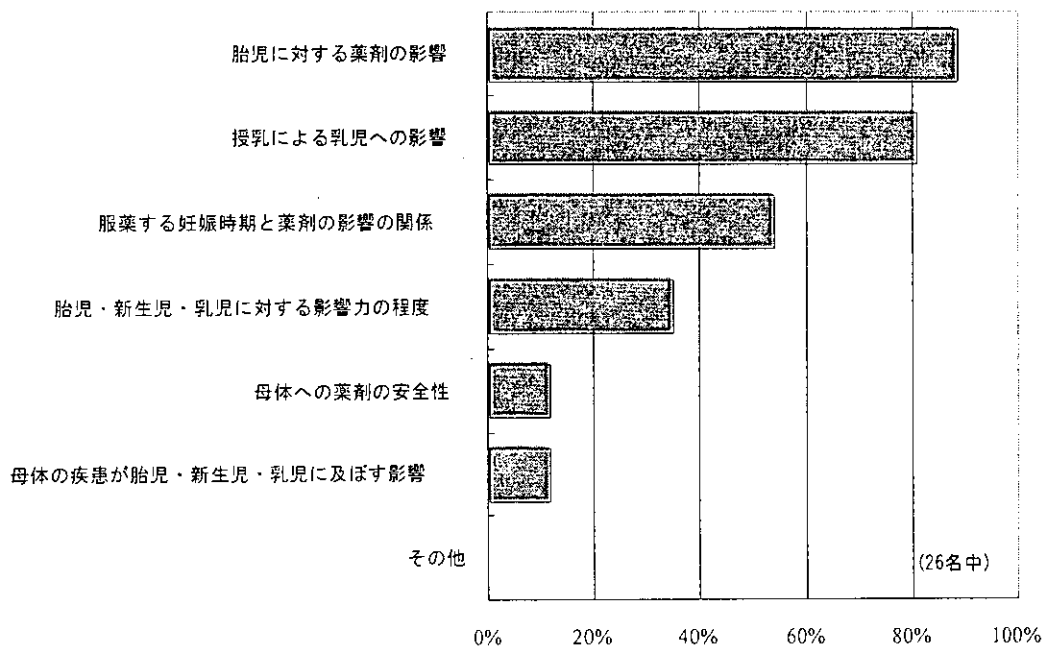


Figure 15. 医師に提供している薬剤情報の内容 (複数回答)

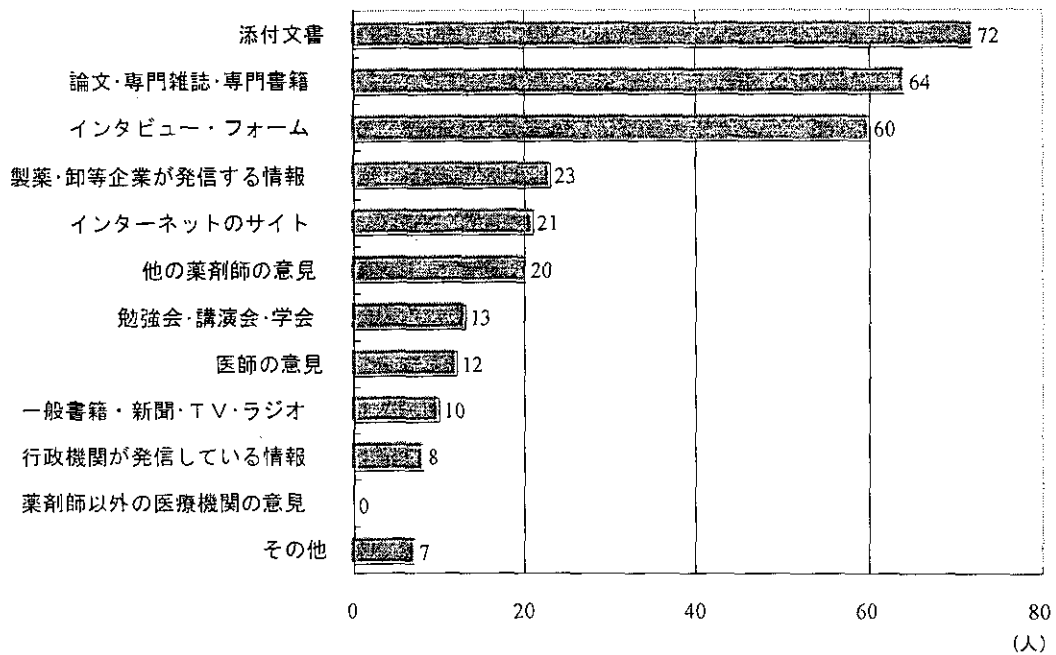


Figure 16. 妊婦・授乳婦への薬物治療に関する薬剤情報を入手している情報媒体 (複数回答)

Q. 「現在入手できる情報によって、妊婦・授乳婦の薬物療法に対する情報提供業務を十分行うことができますか」

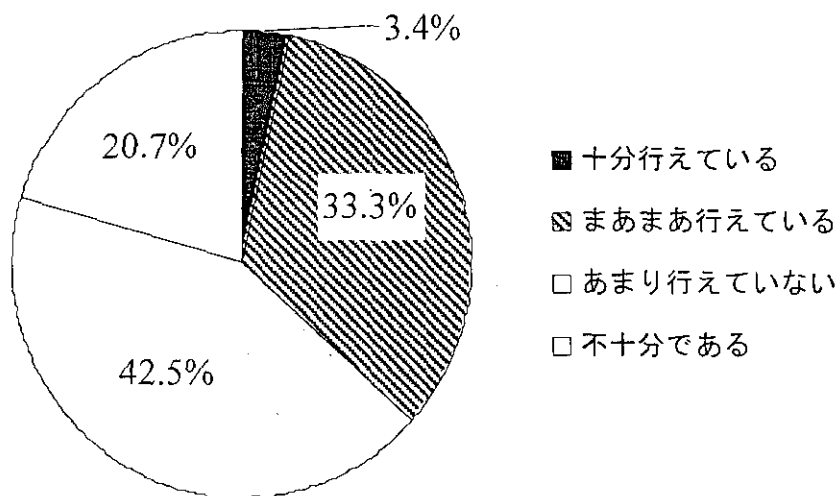


Figure 17. 現在入手できる妊婦・授乳婦に関する薬剤情報の充足度に対する認識

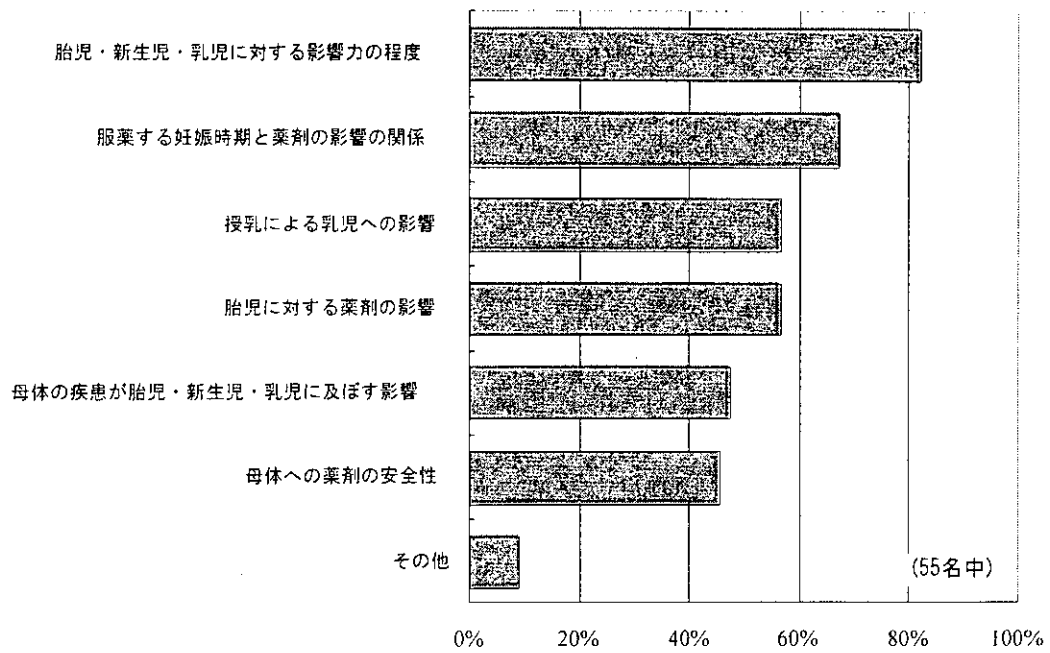


Figure 18. 妊婦・授乳婦への薬物療法の安全性に関して現在不足している情報 (複数回答)

Q. 「世界各国に、妊婦に対する薬剤の危険性に関する評価基準があることをご存知ですか」

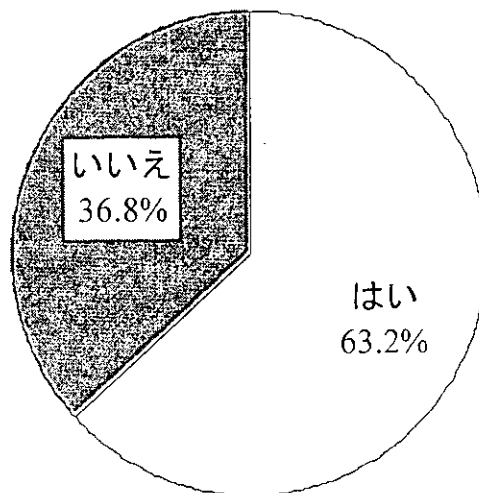


Figure 19. 世界各国における妊婦に対する危険性の薬剤評価基準に対する認識度

Q. 「米国FDAによる、妊婦に対する薬剤の危険性に関する評価基準である「FDA薬剤胎児危険度分類基準 (FDA pregnancy Category)」をご存知ですか

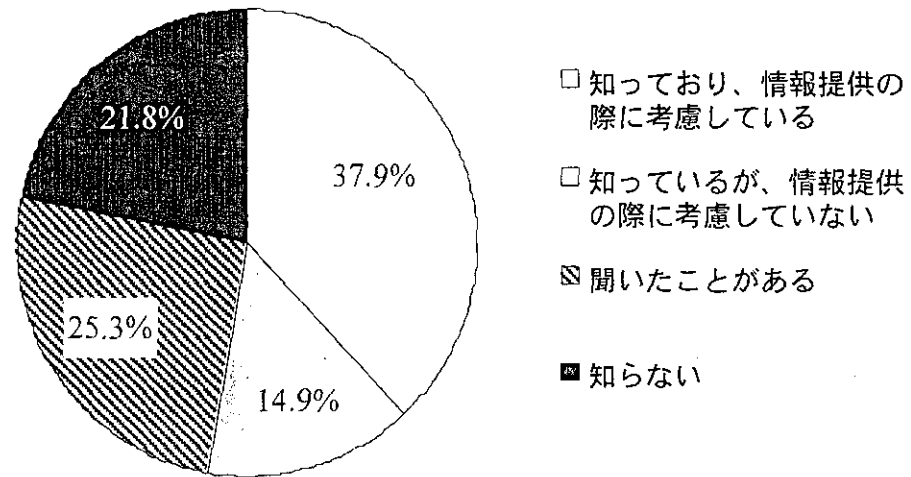


Figure 20. 米国 FDA による「FDA 薬剤胎児危険度分類基準(FDA pregnancy Category)」に関する認識度

Q. 「妊婦・授乳婦への危険性や有用性を考慮した、国内における薬剤の分類基準が必要だと思いますか」

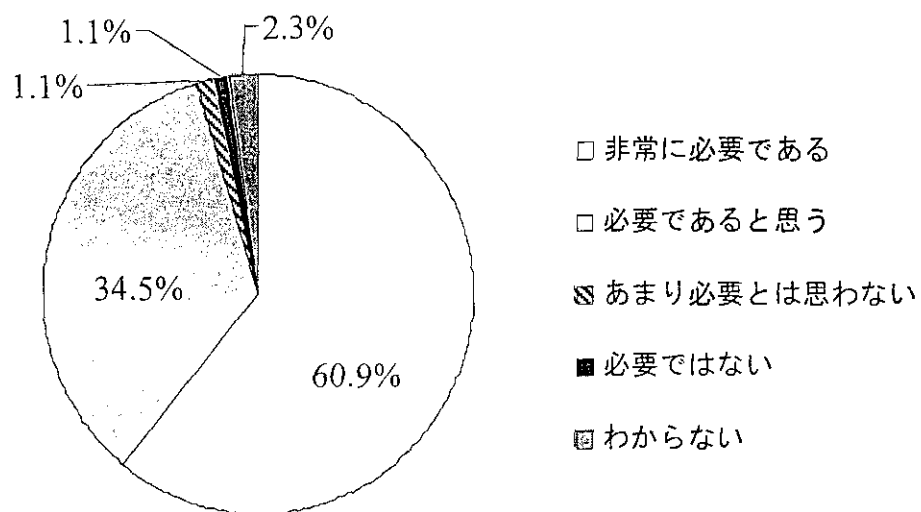


Figure 21. 妊婦・授乳婦への危険性・有用性を考慮した国内における分類基準の必要性の認識

Q. 「妊婦・授乳婦に対する危険性や有用性を考慮した薬剤の分類基準があったとしたら、患者や医師への情報提供に使用しますか」

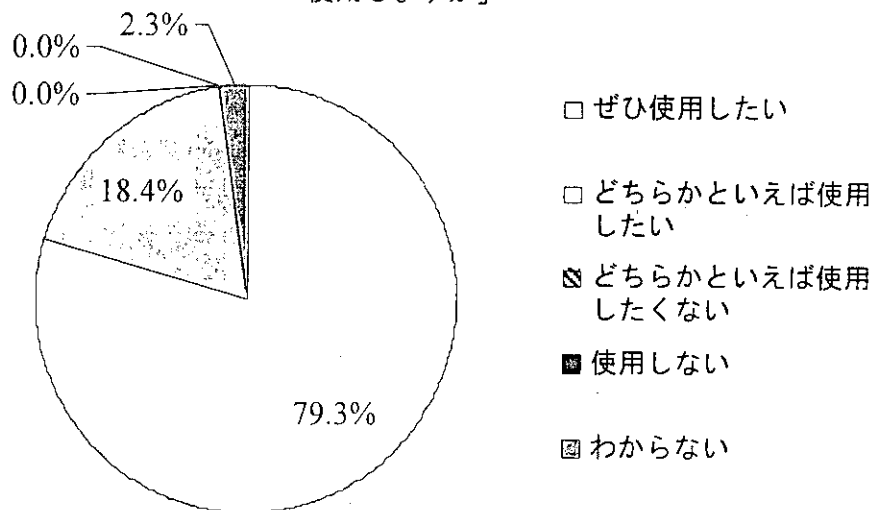


Figure 22. 妊婦・授乳婦に対する危険性・有用性を考慮した分類基準の使用に関する認識

20031217

以降は雑誌/図書等に掲載された論文となりますので、
「研究成果の刊行に関する一覧表」をご参照ください。

研究成果の刊行に関する一覧表

書籍：該当なし

雑誌：

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
林 昌洋	薬剤の催奇形性評価	薬局	49(9)	1647- 1654	1998
林 昌洋	薬物の胎児移行動態と催奇形性	薬事	42(4)	1193- 1198	2000
林 昌洋	妊娠とくすり	日本医師会雑誌	124(7)	1023- 1027	2000
林 昌洋	妊娠・授乳期の薬物投与	医学のあゆみ	197(1)	37-42	2001
林 昌洋	内科医が特に注意すべき相互作用・副作用-症状の捉え方と回避法	内科	88(2)	330- 333	2001
林 昌洋	妊娠における薬物療法の注意点	クリニカ	30(6)	381- 385	2003